

山田小学校だより (Metamorphose)



文責 校長 谷川晴峰

いよいよ、明日から年の瀬・・・師走です！

今日で11月も終わります。明日からは12月。テレビや新聞報道等によくつかわれる「年の瀬」という言葉・・・。「年」という文字は理解できても、どうして「瀬」という文字が後ろに付いているのでしょうか？まず「瀬」という漢字の意味から押さえてみましょう。「瀬」には、次のような意味があります。

- ① 川等の流れが浅く歩いて渡れる所。浅瀬
- ② 川の流れの急な所。また、海水の流れ。潮流。
- ③ 物事に出あうとき。機会。
- ④ 置かれている立場。

この「瀬」という言葉に共通する概念は、「ある一点」を指すということになりそうです。この中で「年の瀬」の由来になっているのは、②の「川の流れの急なところ」になります。

今も昔も同じように、年末というのは、ものすごく慌ただしくなる時期です。「師走」という言葉もあるくらいですから・・・。落ち着いて行動したいものです！



渋柿が、甘くなるのはどうしてでしょうか？

日中の日射しが暖かいせいか、初冬という感覚があまりピンとこない今日この頃の陽気ですが、季節は確実に移り変わろうとしています。健康管理には、十分気を付けたいものです。

これから年の瀬を迎え、やがてお正月を祝う時季が訪れるのですが、商店の店先を眺めてみると、それを裏付けるかのように季節感溢れる食品や日用品が並んでいます。そこで、ふと考えたのですが・・・。「なぜあの渋柿が、干し柿になったら甘くなるのかな????」調べてみました。

干し柿に用いられる柿は渋柿です。乾燥しやすいように、果実が小型の品種が用いられることが多いそうです。このままでは渋くて食用にはならないのですが、乾燥させることにより、渋柿の可溶性のタンニン(カキタンニン)が不溶性に変わって(渋抜きがされて)渋味がなくなり、甘味が強く感じられるようになる(甘さは、なんと砂糖の約1.5倍程度)とされています。甘柿は渋柿と違って渋抜きをせずに食べられますが、糖度そのものは渋柿のほうがはるかに高いため、甘柿を干し柿にしても渋柿のように甘くならないということです。不思議ですね。

この仕組みや過程を、教育という概念で再考してみると、渋味・甘味・苦味等も子供たちの個性に置き換えられると思います。渋抜きをし、苦味や渋味を甘く味わい豊かなものへと昇華させていくことが教育の目的であり、私たち教師や親の務めだと思えます。干し柿から学んだことでした。

意識してますか？横断歩道付近での運転！（JAFのHPより）

信号機のない横断歩道の手前には、横断歩道又は自転車横断帯ありの路面標示や道路標識が設置されています。これらが見えたら、**歩行者の有無をしっかりと確認**できるようにしましょう。

横断歩道を渡ろうとしている歩行者や自転車がいるときは、停止線で一時停止をして渡り終わるのを待ちます。後続車がいるときは追突事故などを避けるために早めに軽くブレーキを踏み、止まる意思を伝えます。歩行者が渡ろうとしているのか、ただ立っているのか判断できないときは、速度を落とし、**いつでも止まれるように準備しておくことが大切**です。信号機のない横断歩道付近では常に周囲に気を配り、歩行者がいるときは交通ルールとマナーを守って思いやりのある運転を！